

専修大学法学研究所所報第57号をお届けいたします。法学研究所は平成29(2017)年に設立50年を迎え、平成30(2018)年2月3日には専修大学法学研究所設立50周年記念シンポジウム「対話する国家・社会へ」を開催いたしました。また、本年に発行する所報57号及び58号につきましては、「専修大学法学研究所設立50周年記念号」と位置付け、50周年記念企画の特集を掲載いたします。本号では50周年記念号企画の第一弾として、2月に開催した記念シンポジウムの成果を掲載しております。

本号では、上記の50周年記念号特集のほか、藤本一美先生、韓永學先生、森田司郎先生からご論稿をお寄せいただきました。また、棟居快行先生には、専修大学法学部主催140回連続講演会でのご講演の内容を紹介いただいております。このほか、平成30(2018)年1月23日に開催した退職教員を囲む会における晴山一穂先生によるご講演「研究生活50年を振り返って」の開催報告を掲載しております。

藤本一美先生による「津島文治——『井戸堀政治家の歩み』：補論2」につきましては、連載中のご論文の一部となる内容でございますが、近く論文をおまとめになり、ご著書として公刊されるとのことでございます。北海学園大学法学部教授の韓永學先生による「韓国の大統領弾劾とメディア」につきましては、平成29(2017)年7月に開催した法学研究所主催ワークショップにおけるご講演の内容を基礎としたご論文でございます。森田司郎先生による「小中高の教育改革は大学教育にどのような影響を与えるのか——学習指導要領改訂と大学のカリキュラムの関係」につきましては、カリキュラム研究の立場から、学習指導要領の改訂がもたらす大学教育への影響について検討されたご研究であり、今後の個別調査の展開への期待も含め、大変興味深い分析が示されております。

棟居快行先生による「政府の憲法解釈雑考」については、学内外から注目を集めた140回連続講演会でのご講演「政府の憲法解釈」の成果を簡潔におまとめいただき、本問題に対する棟居先生のご見解をお示しいただいた内容となっております。晴山一穂先生法科大学院教授退任記念講演「研究生活50年を振り返って」では、晴山先生により囲む会でのご講演をおまとめいただいたほか、当日の法学研究所所員との質疑応答の内容も掲載しております。

専修大学法学研究所設立50周年記念シンポジウム「対話する国家・社会へ」につきましては、暉峻淑子先生による基調講演「対話する力とは何か」のほか、3部構成によるシンポジウムの成果、そして当日のフロアとの対話の様子を掲載しております。

なお、本号の編集にあたっては、前号同様、尚学社の吉田俊吾氏による細やかなご配慮を賜りました。心より御礼申し上げます。

渡邊一弘(法学研究所事務局長)